

「住みたくなるまちづくり全国大会交流大会」 事業実施報告書

C O N T E N T S

総合開会式・地域活性化フォーラム... 2

まちづくり交流会
(地域間交流).....6

全国まちづくりメッセ.....46

NPOフォーラム in 福井..... 54

エコイベント..... 60

開催事業の経過62
新聞記事64

実行委員会名簿 66

開 会 式 ・ フ ォ ー ラ ム

「総合開会式・地域活性化フォーラム」開催報告

1 趣 旨

本交流大会3日間の幕開けとした総合開会式を開催し、市民総参加の事業をめざす。さらに自治コミュニティ形成時代における、市民の役割を参加者一人一人が考える機会とするため、地域活性化フォーラムを開催する。

2 経 緯

交流大会の幕開けと位置付け、市民総参加による総合開会式及び地域活性化フォーラムとするため、自治会や市内の各種団体を始め、全国の行政関係者やまちづくり関係者に参加を呼びかけた。

3 期 日

平成16年10月 8 日(金)

4 会 場

フェニックス・プラザ

5 参加者数

計 1,960人

6 実践内容

イベント広場(外)

テント市 自主グループによる農産物、手づくり食品販売
東安居地区農産物販売
花苗販売(園芸センター)など

協賛テント 環境(環境政策課・環境保全課)
防災(総合防災室)
福祉(社会福祉協議会)

アトラクション 啓蒙ちびっこ太鼓(啓蒙保育園)
福井地区消防音楽隊(福井地区消防本部)
ワケルンジャー(広報広聴課)

まちづくりメッセージ(風船飛ばし)1000個

市民や小中学生が書いた、福井のまちづくりへの思いを風船の中に入れ、参加者一同で、大空に向け飛ばした。



ふれあい広場(内)

情報コーナー (*福井のまちづくり展 *水害展)

観光物産コーナー(観光物産協会)

開会式典

開会宣言 実行委員長 奈良 一機(福井市副市長)
会長挨拶 実行委員会会長 酒井 哲夫(福井市長)
来賓祝辞 総務省(総務大臣メッセージ)

石川 義憲(自治政策課長)
福井県知事 西川 一誠
全国市長会会長 山出 保(金沢市長)

来賓インタビュー 姉妹都市熊本副市長 三嶋 輝男
友好都市結城市長 小西 栄造
姉妹館都市高知市長 岡 誠也

来賓紹介 地域活性化センター理事長 小林 実
福井県議会議長 前田 康博



交流団体メッセージ上映

交流相手団体に福井市民へのメッセージビデオの制作を依頼
・参加団体 58(ビデオ送付有団体 36)

地域活性化フォーラム

地域活性化センターの支援を得て、都市レベルで初めて開催した。

基調講演 ねじめ正一氏(作家・詩人)

テーマ 「街の匂い、人の匂い」

パネルディスカッション

テーマ 「地方分権社会の形成における市民の役割」

基調講演

パネルディスカッション/コーディネーター



ねじめ 正一
作家、詩人



やまね かずま
山根 一真
ノンフィクション作家

パネルディスカッション/パネリスト



かとう てつお
加藤 哲夫
せんだい・みやぎ
NPOセンター
代表理事・常務理事



きしもと あきら
岸本 晃
プリズム代表取締役



なわ た よしひこ
名和田 是彦
東京都立大学教授



なかい れいこ
中井 玲子
市民代表



さかい てつお
酒井 哲夫
福井市長

フォーラム要約

テーマ 「街の匂い、人の匂い」

詩人作家であると同時に、東京阿佐ヶ谷商店街の「ねじめ民芸店」という店の主人として、昭和30年代の活気があった商店街のエピソードを交え、地域で生きることとは、どういうことか、自分の理想とする地域や、人のあり方について講演。

商店街の息子として育ったためか、商店街、特に駅前という言葉が好きなのは、商店街というのが町の窓口であるというか、駅前の商店街を見るとその町全体が見えてくる。商店街というものが、その地域の人たちを計るひとつのものさしになっている。町には安全性というものが大事であるが、安全面をあまり引っ張ってしまうと町の特徴が失われ、画一化してしまう。町にはいかがわしさという計算できないところの面白さがある。そういう町の匂いが出てくるには時間がかかると思うけれど、いち、にのさん、で町を作るのではなく、様子を見ながら余裕というのか、そういうものが町には必要なのではないだろうか。

また、今町の中で生きていく人間の心の有り様としては、どういう気持ちで生きていけば一番いいのかを考えると、今まで、商店街というのは、商売をやっているという思いはあるんだけど、そこで住んでいるという自覚が欠けていたのではないかと。住んでいる自覚が足りない。私の理想は商店街の中で一番いい庶民になること、いいインテリになろうなんて思わない。地域で生きるとは、生きていて楽しいということを自分の中で発見することではないだろうか。

テーマ「地方分権社会の形成における市民の役割」

今日の社会情勢について

- 山根 パネルディスカッションのテーマは「地方分権社会の形成における市民の役割」ということで、まず今世の中がどうなっているか、確認をしましょう。
- 名和田 ・20世紀、「公共」とは行政のことだったが、行政ではなく市民社会によって決定・執行される公共的領域は、「公共的決定」・「公共的意思決定」、さらに「公共サービス」へと広がっている。このように、社会は急速に協働型になっていて、世界的な流れだ。
- 加藤 ・つまり現在、官と民はサービス執行手段と主権者の関係にあると考えられる。
 ・最近取り上げられることが多くなったNPOとは、市民活動をする団体のことで、90年代以降、行政がカバーできない公益的なサービスや様々なまちづくり、つまり市民に対する公共的なケアを担うようになった。
 ・まちづくりに大きな役割を演じるのは、市民活動団体と住民とを結びつける市民活動団体で、「中間支援組織」と呼ばれる。

まちづくりを実践して...

- 山根 皆さん、まちづくり活動を実践していらっしゃいますが、いかがですか。
- 酒井 ・まちづくりに取り組むには、第1次生活圏である小学校区単位が良いと考え、実践してきた。
 ・「運動会型まちづくり」の反対は「サーカス型」のまちづくり。住民みんな、一人一人が知恵を出し合うことが重要だ。
- 中井 ・他の地方や地区のことを知ることで、自分の住むまちを再評価した。
 ・まちづくり活動で体験学習プログラムを提供することによって、地域住民同士の交流に繋がった。まちづくりはひとつづくりだと感じた。
- 岸本 ・TV番組制作のノウハウを提供してまちづくり活動につなげているが、その方法は地域の人々が地域のことを知り、まちづくりの企画力をつける道具だと考えている。
 ・地域の情報を簡単に放送・発信できるということは、責任を持って地域のことを考え、実践することにもつながる。実践者同士のネットワークもできてくる。

まちづくりのポイント

- 山根 まちづくりで重要な点は何でしょうか。
- 名和田 ・一つは、小学校区くらいのまとまりを大事にすること。もう一つは、地域がまとまる必要性を住民自身が感じることだ。
- 山根 ・その例を挙げれば、「防災のまちづくり」をテーマにした活動も、災害に対する危機感と必要性によって継続・発展する。
- 加藤 ・まちづくりの仕組みとして重要なことは、一般の住民、特に成人男性や地域の企業もまきこむこと。さらに、市民・社会がお金やものを出し合ってまちづくりを支えるシステムがあることだ。
 ・テーマ型であり「すること(Do)」に基づくNPOと、「存在すること(Be)」に基づく地縁型コミュニティがうまく結びつくことも大切だ。今、地縁型コミュニティも、地域の問題解決を目指してテーマ型に志向しつつある。
 ・NPOが専門性・当事者性を高め、地域住民とともにまちづくりの企画ができる人材を責任持って生み出し、地域を変革していくことが必要だ。
 ・たとえば、NPOが地域に根ざす手段として、公民館などの拠点をNPO・地域・行政の協働型にするのはどうか。
 ・行政は、NPOが地域で良い仕事ができるような基盤整備をする必要がある。
- 名和田 ・行政と市民社会の力がうまくかみ合うことが重要。もしも協働の領域で事故が起きた場合も、協働の関係をすべて止めてしまうのではなく。
- 山根 ・まとめると、今までとは違った、地域づくりに対する新しい考え方や手法、行政との関係性が出てきている。様々な地域同士で交流し、知恵を出し合うことがポイントではないか。地域ごとに事情は違うが、学ぶことは非常に多い。会場の皆さんも参考としてください。ありがとうございました。

7 事業の総括

地域活性化フォーラムのアンケート結果から

